

第11章

一部帰島

第1節 帰島に伴う住宅の選定 (124)

第2節 県営住宅の完成 (125)

第3節 帰島式 (126)

第4節 引越 (128)

第5節 保育所・小中学校の再開 (130)

第1節 帰島に伴う住宅の選定

平成19年3月に県営住宅が完成し、4月からは島内で保育園や小・中学校が再開することから、かもめ広場の仮設住宅で暮らす島民の帰島が決定した。帰島に際し、県営住宅、仮設住宅、自主再建する住宅、既存市営住宅への入居と多くのパターンがあった。

玄界島・かもめ広場の空き住宅を決定するためにまず、県営住宅抽選会を実施し、入居者を決定した。その他の世帯については、島へ帰島することとしたが、全ての島民が帰島できるだけの仮設住宅がなかったため、復興委員会と協議の上かもめ広場残留世帯を決定した。最後に玄界島とかもめ広場仮設住宅の抽選会を実施した。

1 県営住宅抽選

県営住宅入居については、一般公営住宅であることから、抽選に先立ち、所得等入居資格調査を平成18年7月7日に福岡県住宅管理課が実施した。その結果、公営住宅希望者110世帯の内(世帯分離をあわせると115世帯)、県営住宅入居資格を有する世帯は、97世帯となった。この内3LDK希望者33世帯については、県営住宅にない間取りであることから、抽選の対象外となり、最終的な対象世帯数は64世帯となった。

抽選会は、平成18年10月21日に玄界公民館において福岡県建築都市部住宅管理課により実施された。

希望者が重複する住戸もあったが、入居希望者が整備戸数に満たず逆抽選となり、最終的に50戸の入居者が決定した。

2 かもめ広場残留

福岡県は、県営住宅完成に伴いかもめ広場仮設住宅居住者の全員帰島を目指した。全世帯数に対する玄界島における仮設住宅の戸数は満足していたが、6人世帯など多人数世帯についても仮設住宅1戸利用を前提としたものであったことから、現実的な案でなかった。復興委員会に対し県営住宅の仮設利用も打診したが、島民が仮設住宅利用後の再入居に難色を示したことから、県営住宅を本入居とすることに決定した。しかしながら、玄界島にできるだけ多くの島民を帰島させるために、県営住宅の世帯分離世帯については、1年間世帯合併することとした。

このような協議がなされた結果、復興委員会は下記の方針を決定し、対象となる13世帯に対し、平成18年11月21日付け「かもめ広場への残留について(お願い)」を通知した。また、同日付けで5人以上の世帯に対しては、仮設住宅を2戸必要かどうかの意向調査を実施した。

かもめ広場からの帰島についての方針

- ①かもめ広場からは可能な限り帰島する。(保育園・小学校・仕事関係者は必ず帰島)
- ②帰島・世帯統合により、5人以上となる世帯は、希望すれば仮設住宅を2戸借りられる。(4人以下の世帯については、帰島・世帯統合)
- ③世帯分離を希望している世帯のうち、県営住宅に入居が決定している世帯は、市営住宅が完成する迄の期間、当面、県営住宅1戸に入居してもらう。(世帯分離は市営住宅完成後)

この後、通院や家族の看護等のため、かもめ広場に残留を希望する世帯が出たことから、復興委員会で検討し、最終的には19戸42名がかもめ広場に残留することとなった。また、自治会からの要望により、仮設住宅1戸を集会所として利用することが決まり、最終的には20戸の仮設住宅を1箇所を集約し、かもめ広場に残留することとなった。

3 仮設住宅抽選

平成19年2月3日の島民総会において仮設住宅の抽選について説明し、同日抽選会を実施した。玄界島においては、5人以上の他人数世帯のうち、仮設住宅を2戸必要とする12世帯については、家族関係に配慮し、優先して抽選することとした。

第2節 県営住宅の完成

震災からちょうど2年経過した平成19年3月20日、福岡県主催のもと、完成記念式典が開催され、麻生渡福岡県知事から復興委員会・伊藤会長へ県営住宅の鍵が渡された。これにより、いよいよかもめ広場からの帰島が始まった。また、県営住宅敷地内に完成記念植樹が行われた。

県営住宅の名前については、復興委員会で、建設用地が昔から小浜と呼ばれていたことから、「福岡県営玄界小浜住宅」と決定された。



鍵渡し式の様子



県知事の記念植樹

第3節 帰島式

かもめ広場からほとんどの世帯が帰島することとなったことから、これまでいろいろと協力していただいたかもめ広場周辺住民の方に感謝の気持ちをこめて、かもめ広場からの引越を前に平成19年3月23日に島民主催の帰島式が行われた。

帰島式では、お世話になった方々を招待し、感謝状を贈呈するとともに、保育園児による太鼓の演奏や「僕のふるさと玄界島」を作詞作曲した野田かつひさんと小中学生との合唱などがかもめ広場周辺に大きく響いた。

かもめ広場帰島式 式次第

- 一. 玄界島復興対策検討委員会会長挨拶
- 一. 感謝状・感謝品の贈呈
 港地区まちづくり協議会殿
 簗子校区自治連合会殿
 福岡市漁業協同組合殿
 シンガーソングライター
 野田かつひこ殿
- 一. 港地区まちづくり協議会会長挨拶
- 一. 福岡市長挨拶
- 一. 小学生合唱
 ～島に咲く花のように～
 ～僕のふるさと玄界島～
- 一. 保育園園児島鷹太鼓



お礼を述べる復興委員会会長



子ども達の合唱

帰島式 来賓案内者

かもめ広場地元関係者(6名)		
所 属	役 職	氏 名
港地区まちづくり協議会	会長 ※自治連会長兼任	松原 英三
	副会長	大仁 昭
	副会長	谷脇 正治
	会計	二田 豊昭
簗子校区自治連合会	副会長	難家 整
	副会長	田上 稔

福岡市漁業協同組合関係者(3名)		
福岡市漁業協同組合	組合長	今泉 治美
	専務	田中 洋三
	参事	島田 捨男

福岡県関係者(5名)		
建築都市部	技監	塚本 義孝
建築都市部住宅管理課	課長	平 信二
	課長技術補佐	渡辺 猛雄
	建替改善係長	野田 敏治
	建替改善係	田中 希代

福岡市関係者(17名)		
所 属	役 職	氏 名
福岡市長		吉田 宏
市民局	局長	吉村 哲夫
	理事	岩下 實次
子ども未来局	理事	日下部喜通
農林水産局	局長	山田 隆光
保健福祉局	総務部長	松田 潤嗣
環境局	ごみ対策部長	福永 和昭
都市整備局	局長	中村 耕二
	理事	古木 岳美
	都市開発部長	佐村 美章
	地域計画課長	田梅 雅彦
西区役所	区長	坂田 憲治
	地域支援課長	藤嶋 昌徳
教育委員会	施設部長	永野 宗和
建築局	局長	松井 愛人
	住宅部長	椋野 清彦
	住宅建築課長	石村 直一

第4節 引越

復興委員会は、かもめ広場と玄界島の引越準備に平成19年1月から着手した。かもめ広場から帰島する世帯の中には、玄界島で引き続き仮設住宅に入居する世帯があることから、まず、島内の引越(県営住宅への入居)を完了し、その後かもめ広場からの引越を行った。

スケジュール

日付	曜日	内容
3月 3日	土	引越説明会、県営住宅入居説明会 梱包材配布(玄界公民館)
3月 4日	日	梱包材配布(かもめ広場集会所)
3月17日	土	県営住宅ガスコンロ、照明器具取付日
3月18日	日	〃
3月20日	火	午前:県営住宅竣工のセレモニー(島民代表) 12時:県営入居者へ鍵渡し(50戸)
3月21日	祝	玄界島仮設住宅等 → 県営住宅へ引越
3月22日	木	玄界島仮設住宅の退居確認 県営住宅入居者の網掛け作業場・体育館からの荷物搬出
3月23日	金	業者による玄界島仮設清掃(トイレ、浴室のみ)かもめ広場引越しセレモニー
3月24日	土	荒天のため延期
3月25日	日	かもめ広場 → 玄界島へ引越 かもめ広場仮設住宅(残留地区内)の退居確認
3月26日	月	業者によるかもめ仮設清掃(トイレ、浴室のみ) かもめ広場仮設住宅(残留地区外)の退居確認 保育園小中学校引越
3月27日~ 3月30日		かもめ仮設に住宅用消火装置の取り付け工事 中学校体育館の荷物・棚の集約
3月31日	土	かもめ広場内の仮設引越、退居確認

引越作業に当たっては、内浜校区体育振興会、福岡東南ロータクトクラブ、福岡県職員、福岡市職員の総勢174名がボランティアとして参加。海上運搬については玄界島出身の宮川運送の協力があった。

1 玄界島島内の引越

平成19年3月20日に県営住宅の鍵渡し式となったことから、平成19年3月21日に玄界島島内の仮設住宅から県営住宅への引越を実施した。

トラック10台、ボランティア56名の協力を得て、島民総出で荷物を運搬した。

2 かもめ広場からの引越

平成19年3月24日に引越を予定していたが、福岡管区気象台の多大なる協力により、22日以降玄界島周辺における天気、風速、波浪、最大1時間雨量等を予報していただき、24日が天候不良で翌日は回復するとの詳しい情報を得て、23日午前10時に25日に延期することを決定した。当日は、予想通り雨は降らず、午後には晴れ間ものぞく天気となった。

しかし、この延期に伴い25日のボランティアが不足したことから、玄界島で作業を予定していたボランティアは、すべてかもめ広場に回すこととし、玄界島では、島民総出で引越にあたった。

かもめ広場から玄界島への移動については、市役所のバスを準備するとともに、市営渡船を1便増便した。

今回の引越については、福岡県、福岡管区気象台、福岡市内部の関連局など多岐にわたったが、それぞれの部署が役割を担い、無事終了することができた。

3 かもめ広場内の引越

かもめ広場に19世帯残ることから、かもめ広場の仮設住宅を1箇所を集約するために、福岡県、福岡市の職員ボランティアを動員し、平成19年3月31日に引越を実施した。

4 中学校体育館の荷物搬出

中学校体育館は、震災後から島民の家財を保管していたが、平成19年4月からの小・中学校再開にあわせて、バレーボールコート一面を確保して欲しいとの要望があったため、体育館の半面を明け渡す必要があった。このため、平成19年2月24日に体育館に収納している不要物を処分した。同日、中学校校舎に置いていた家具についても、漁協の協力により漁協施設である網かけ作業場へ移動させた。

また、県営住宅入居者については、平成19年3月22日にすべて搬出し、残りの荷物は体育館の半面に荷物を集約させた。翌3月27日には棚の解体工事に着手し、中学校に体育館を引き渡した。



かもめ広場からの引越



台船でトラックを運搬



帰島を出迎える島民



島民総出で引越

第5節 保育所・小中学校の再開

平成19年3月のかもめ広場からの帰島に伴い、玄界島保育園、玄界小学校、玄界中学校が4月から島内で再開した。玄界小学校については、大きな被害を受けていたことから中学校校庭にプレハブの仮設校舎を建設しての再開となった。

平成19年4月再開時の人数(震災時)

○保育園児9名(25名)

園長1名 保育士4名 調整員2名

○小学生19名(35名)

校長1名 教頭1名 教員4名 養護1名 事務1名 用務員1名 給食2名

非常勤講師1名 合計12名

○中学生13名(13名)

校長1名 教頭1名 教員7名 用務員1名 給食1名 合計11名

非常勤講師2名(週1)

平成19年10月6日、秋空の晴天の中、保育所・小学校・中学校合同の大運動会が、島で3年ぶりに開催された。

仮設の小学校が設置されているため、グラウンドが少し狭くなり、園児15名、小学生19名、中学生13名と児童数も少なくなったが、中学生を中心に全力で頑張り、地域の方々も大綱引きやリレーに参加した。



中学校入学式の様子(平成19年4月10日)



保・小・中合同運動会(平成19年4月6日)